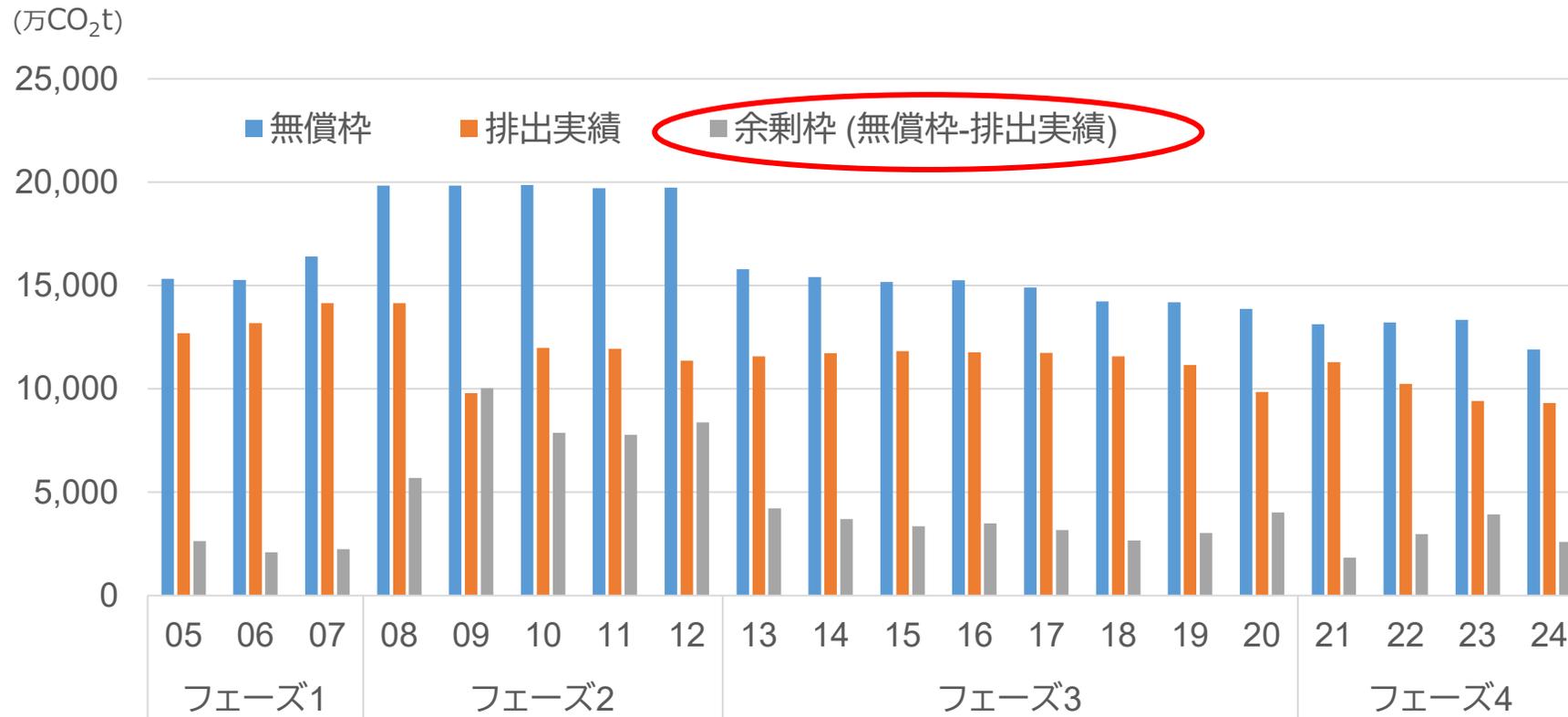


# EUの炭素価格政策：ケーススタディ

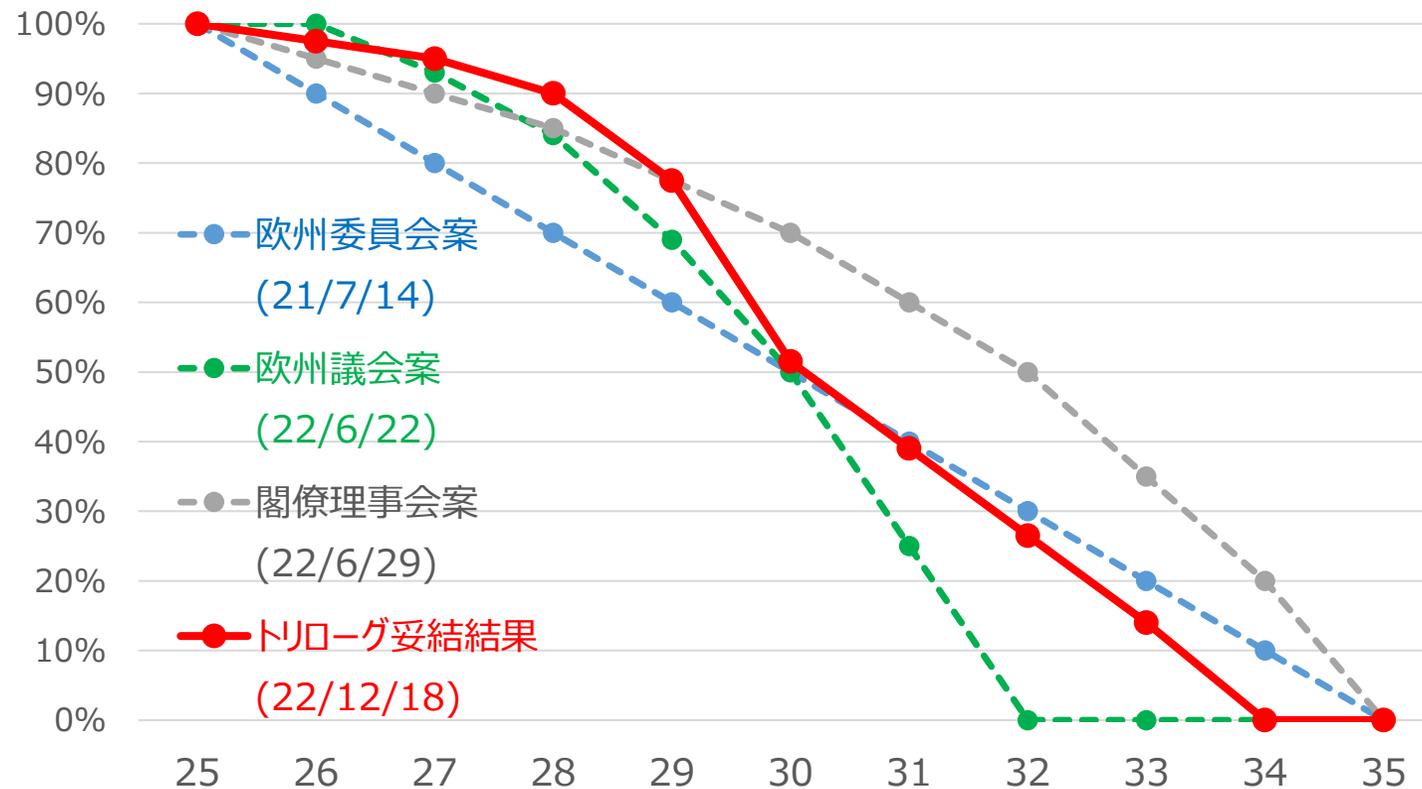
- 2005年のEU-ETS開始当初からHtA産業に排出権が**無償配賦**されている（CP緩和）



出所：European Environment Agency (EEA) <https://www.eea.europa.eu/data-and-maps/dashboards/emissions-trading-viewer-1>

# EUの炭素価格政策：無償配布削減

- 2005年のEU-ETS開始当初からHtA産業に排出権無償配賦（CP緩和）
- **2026年から無償配賦削減→本格的なCP賦課開始**



# EUの炭素価格政策：補償

- 2005年のEU-ETS開始当初からHtA産業に排出権無償配賦（CP緩和）
- 2026年から無償配賦削減→本格的なCP賦課開始
- **2つのリーケージリスク**
  - ①輸入品代替：CP負担のない高CFP輸入品に代替
  - ②輸出機会損失：CP負担で域内製品国際競争力低下
- **対策としてのCBAM（建前：CO2排出増防止/本音：域内企業事業支援？）**
  - 輸入品に域内同等のカーボンプライスを賦課（環境対策であり輸入規制ではない）
    - ・しかし輸出競争力対策には繋がらず片手落ちと産業界から批判
- **輸出競争力対策：Temporally Decarbonization Fund提案（25年12月）**
  - CBAM賦課金政府収入の25%をTDFとして積み立てる
  - 26～27年の2年間輸出機会損失実績に基づき28～29年に支援金支給（実質的なCP還付？）
  - 28年以降については実績を見て無償配賦削減スケジュール含むETS制度見直し

# EUの炭素価格政策：機会損失

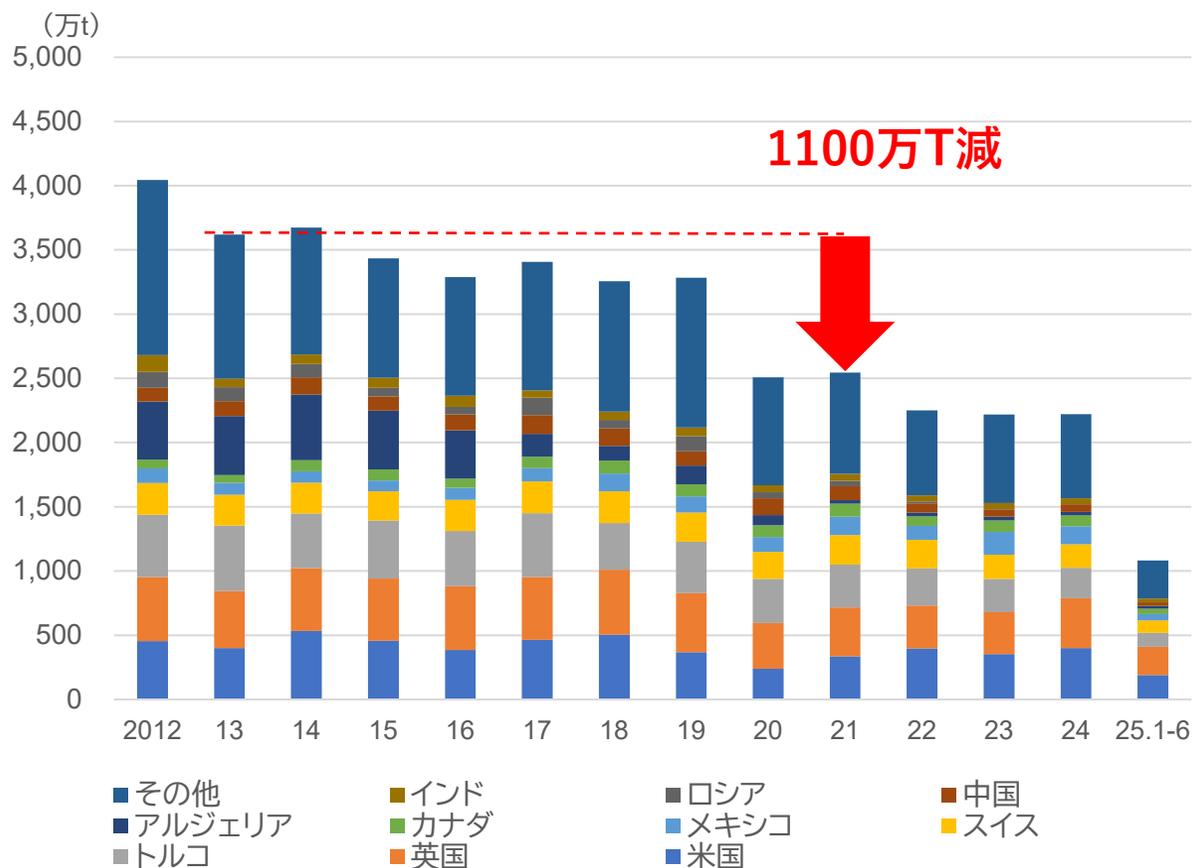


図1. EUの鋼材域外輸出推移

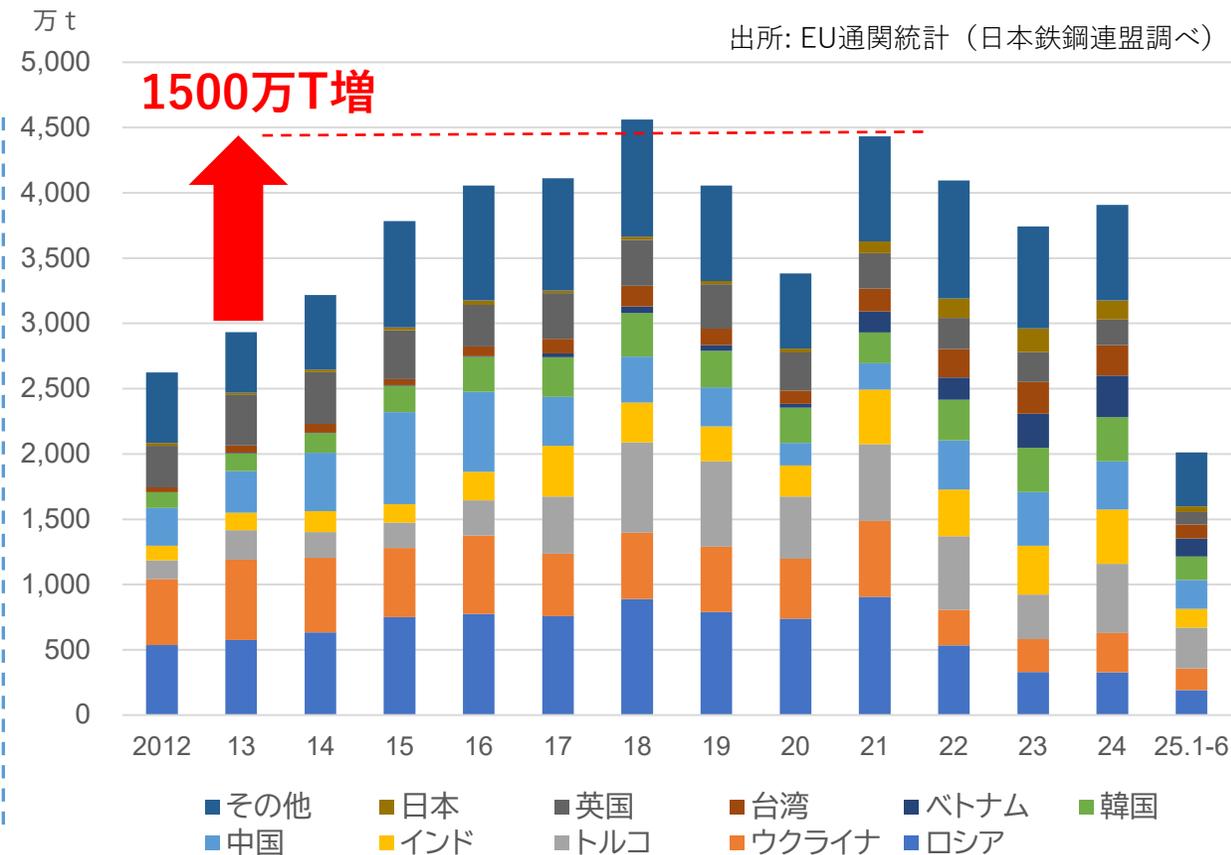


図2. EUの鋼材域外輸入推移

2013~21年のETSフェーズ3期間8年間で輸出-1100万トン 輸入+1500万トン  
 粗鋼生産量は1.5億トンでほぼ同じ→域内市場拡大2600万トンを輸出減と輸入増で充当

# EUの炭素価格政策：EU-ETSから得られる示唆

- 2005年のEU-ETS開始当初からHtA産業に排出権無償配賦（CP緩和）
- 2026年から無償配賦削減→本格的なCP賦課開始
- 2つのリーケージリスク
  - ①輸入品代替：CP負担のない高CFP輸入品に代替
  - ②輸出機会損失：CP負担で域内製品国際競争力低下
- 対策としてのCBAM（建前：CO2排出増防止/本音：域内企業事業支援？）
  - 輸入品に域内同等のカーボンプライスを賦課（環境対策であり輸入規制ではない）
    - ・ ・しかし輸出競争力対策には繋がらず片手落ちと産業界から批判
- 輸出競争力対策：Temporarily Decarbonization Fund提案（25年12月）
  - CBAM賦課金政府収入の25%をTDFとして積み立てる
  - 26～27年の2年間輸出機会損失実績に基づき28～29年に支援金支給（実質的なCP還付？）
  - 28年以降については実績を見て無償配賦削減スケジュール含むETS制度見直し
- **現実に起きていること**
  - 内需が拡大しても生産拡大機会に繋がらない（無償配賦枠以内に生産抑制？）
  - CBAMにより輸入肥料価格高騰を懸念する農民の抗議→CBAM除外の検討（無償配賦継続？）
- **本質的課題**
  - EU域内の対象製品サプライチェーン全体にCP価格転嫁ができるか？
  - その結果発生するCP起因の内外価格差はサステナブルか？

# EUの炭素価格政策：論点

- **EU市場は本格的なCPによる「環境インフレ」を甘受できるか？**
- **ETSは成長に資するCP制度になるか？**

**GX-ETSはEU-ETSから何を学ぶことができるか？**